



2024年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社あさくま 上場取引所 東
コード番号 7678 URL <https://www.asakuma.co.jp>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)廣田 陽一
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)西尾 すみ子 (TEL)052(800)7781
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年1月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期第2四半期	3,512	19.7	121	—	129	—	81	—
2023年3月期第2四半期	2,935	20.2	△29	—	△60	—	△73	—

(注) 包括利益 2024年1月期第2四半期 81百万円(—%) 2023年3月期第2四半期 △73百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年1月期第2四半期	円 銭 15.37	円 銭 15.36
2023年3月期第2四半期	△13.87	—

当社は2023年6月29日に開催された第50期定時株主総会で、「定款一部変更の件」が承認されたことを受けて、2024年1月期より決算日を3月31日から1月31日に変更いたしました。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年1月期第2四半期	百万円 3,481	百万円 2,453	% 70.5
2023年3月期	3,307	2,372	71.7

(参考) 自己資本 2024年1月期第2四半期 2,453百万円 2023年3月期 2,372百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年1月期	—	0.00	—	—	—
2024年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年1月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,096	—	174	—	179	—	106	—	19.95

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2023年6月29日に開催された第50期定時株主総会で、「定款一部変更の件」が承認されたことを受けて、2024年1月期より決算日を3月31日から1月31日に変更いたしました。このため通期については対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年1月期2Q	5,384,070株	2023年3月期	5,384,070株
2024年1月期2Q	70,629株	2023年3月期	70,629株
2024年1月期2Q	5,313,441株	2023年3月期2Q	5,317,377株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループの取組みといたしましては、新型コロナウイルス禍において経費削減を行う中で、生産性向上を進めてまいりました。目指す姿としては、店舗人員を少なくしながらも今までよりも良いサービスを提供し、お客様から「サービスが良くなったね」と言って頂くことです。しかし、そのためのトレーニングが追いついておらず、店舗のQSC(商品品質・接客サービス・清潔さ)についてのクレームを多く頂くようになってしまいました。これが来店客数の戻りが悪い原因の1つではないかと考え、QSCの改善と、サラダバーの充実に注力してまいりました。

新たな取組みとしましては、商品品質につきましては、今まではマニュアルを送っているだけだったものを、動画マニュアルを作成し、視聴していないと回答できない問題を用意し試験を行い、さらに実際に調理してみる実地試験を行う事で、全店で同じ品質の商品を提供できるように取り組みました。調理トレーニングと試験も月1回のエリア会議時だけではなく、新たに注力店舗を決めて、商品課とエリアマネージャー、店長、ふかかちさん(パート社員)を集めて行い、調理技術のチェックと向上、調理方法、マニュアルの見直しなどを行いました。課題としましては、調理スタッフすべての技術を上げる事、生産性を上げる事であります。そのために、今後も店長だけでなく、ふかかちさん(パート社員)も集合教育を行いレベルアップしてまいります。また、マニュアルを実際に使いながらトレーニングを行う事で、だれが見ても同じ商品が作れるようにし、全店での商品品質の標準化を目指してまいります。

サービスにつきましては、引き続き、タイムスケジュールのチェックを行い、適正な人員配置を行ってまいります。サラダバーの補充やお済みの食器類の引き揚げ(バッシング)を最優先事項として取り組むことで、「お客様を待たせない」、「不満足を与えない」を目指して取り組んでおります。そのための行動指標として「1way4job(一つの流れの中で4つの事を行う)」を掲げ取り組んでおりますが、注文を取りに行った後にバッシングを行う事は比較的できるようになってきてはいるものの、サラダバーの補充や清掃までは、まだまだ徹底ができておらず、3分の1ほどの店舗では十分とは言えません。徹底して実行し続ける事は難しいものの、継続して取り組んでまいります。

サラダバーの充実に關しましては、「お客様をびっくりさせる」をテーマに2023年2月より25品目から45品目にアイテム数を増やし、現在では50店舗にて提供しております。“モツ煮込み”“野菜のトマト煮込み”“白菜のクリーム煮”“麻婆豆腐”などの温かいメニュー「ホットバー」を提供する店舗も、現在22店舗にて展開しております。また、自分で作れる体験型デザートコーナーの拡充にも取り組みました。今後も店舗を増やしてまいります。課題としましては、ホットバーを提供する事で、今までの調理工程の少ない野菜類と違い、お客様の喜びの声もたくさん頂いておりますが、一方で、今日のは味が薄い、油っぽいなどの商品の品質に対しての声も少し頂いております。今後はホットバーにおいても、毎月の調理トレーニング、試験、マニュアルの更新を行い、一定の品質の商品を提供できるようにし、不満足の声を頂かないように取り組んでまいります。

当期におきましては、お客様の流れが劇的に増えてきた今だからこそ、食材コストをかけてでも、お客様にびっくりしてもらい、喜んでもらうお店作りを行ってまいります。

商品政策としては、夏のフェアとして、シャリアピンステーキとあさくまの名物メニューだった“アスパラステーキ”の復活、これまでは一部店舗での販売のみとなっていたテンダーロインステーキの全店で販売を、秋のフェアとして、“食べるソース”をテーマに、金山寺味噌と赤ワインソースのステーキやキノコのデューセルソースのモモ肉ステーキの販売を行いました。

また、9月の肉の日(毎月最終土曜日・日曜日)には、新しくグループ会社となった株式会社ヤマトとのコラボメニューで千葉県産のイセエビも販売し、仕入数量をほぼ完売いたしました。

“泣かせるあさくま”の取組みとしましては、夏休み期間に合わせ、キッズ体験と称し、小さなお子様がお父さんお母さんへステーキやハンバーグを焼いて提供する調理体験だけではなく、普段言えない“ありがとうの言葉”を手紙に書いて読んで渡す、そんな空間を提供する事に取り組みました。7、8月で200件以上のお申し込みを頂き、夏休みの特別な体験や感動の時間を提供できたのではないかと実感しております。課題としましては、実施している店舗もまだ一部で、“泣かせる”もまだまだうまくはいっていませんが、当社グループが目指すレストランにするために絶対に必要な事だと考えておりますので、感動を提供できる“泣かせるあさくま”になれるよう引き続き取り組んでまいります。

以上の結果、売上高が3,512,981千円（前年同四半期比19.7%増）、営業利益が121,985千円（前年同四半期は営業損失29,918千円）、経常利益が129,237千円（前年同四半期は経常損失60,493千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益が81,646千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失73,761千円）となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における店舗展開につきましては、株式会社あさくまサクセッションにて1店舗閉店いたしましたので、当第2四半期連結会計期間末現在における当社の店舗数は、直営店61店舗にF C店4店舗を加えて65店舗、株式会社あさくまサクセッションの直営店は9店舗で、当社グループの総店舗数は74店舗（F C店4店舗を含む）となっております。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて159,090千円増加し、2,348,991千円となりました。主な要因は現金及び預金で225,247千円増加したことに対して、未収入金で80,066千円減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて15,872千円増加し、1,132,997千円となりました。主な要因は有形固定資産で14,352千円増加したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて174,963千円増加し、3,481,988千円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて100,247千円増加し、842,039千円となりました。主な要因は買掛金で19,978千円、未払法人税で38,614千円、賞与引当金で16,779千円それぞれ増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6,930千円減少し、186,012千円となりました。主な要因は長期借入金で6,080千円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて93,317千円増加し、1,028,051千円となりました。

（純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて81,646千円増加し、2,453,936千円となりました。主な要因は利益剰余金で81,646千円増加したことによります。

この結果、自己資本比率は70.5%（前連結会計年度末は71.7%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は1,958,089千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は285,932千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益129,237千円、減価償却費38,727千円、仕入債務の増加額19,978千円、法人税等の還付額64,946千円を計上したこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は56,509千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出52,415千円を計上したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は4,176千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出4,176千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年1月期の連結業績予想については、2023年5月30日の「決算期（事業年度の末日）の変更に伴う業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、今後の進捗により、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,732,842	1,958,089
売掛金	259,979	264,128
原材料及び貯蔵品	43,392	48,512
未収入金	117,290	37,224
その他	36,395	41,035
流動資産合計	2,189,900	2,348,991
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	380,094	381,510
その他(純額)	163,791	176,727
有形固定資産合計	543,885	558,237
無形固定資産		
その他	30,505	29,151
無形固定資産合計	30,505	29,151
投資その他の資産		
破産更生債権等	812,892	812,892
差入保証金	464,971	466,805
その他	77,762	78,801
貸倒引当金	△812,892	△812,892
投資その他の資産合計	542,733	545,607
固定資産合計	1,117,124	1,132,997
資産合計	3,307,025	3,481,988

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	376,817	396,796
1年内返済予定の長期借入金	12,688	14,592
未払法人税等	15,158	53,773
賞与引当金	15,961	32,740
株主優待引当金	19,303	9,752
その他	301,863	334,384
流動負債合計	741,792	842,039
固定負債		
長期借入金	92,512	86,432
資産除去債務	78,230	77,380
その他	22,200	22,200
固定負債合計	192,942	186,012
負債合計	934,734	1,028,051
純資産の部		
株主資本		
資本金	91,531	91,531
資本剰余金	1,711,770	1,711,770
利益剰余金	675,417	757,063
自己株式	△106,429	△106,429
株主資本合計	2,372,290	2,453,936
純資産合計	2,372,290	2,453,936
負債純資産合計	3,307,025	3,481,988

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,935,863	3,512,981
売上原価	1,184,854	1,434,300
売上総利益	1,751,009	2,078,681
販売費及び一般管理費	1,780,927	1,956,695
営業利益又は営業損失(△)	△29,918	121,985
営業外収益		
受取利息及び配当金	10	9
不動産賃貸料	1,603	1,603
受取保険金	1,674	4,754
助成金収入	2,512	—
その他	4,101	2,471
営業外収益合計	9,902	8,838
営業外費用		
支払利息	1,843	791
助成金減額損	37,942	—
その他	690	795
営業外費用合計	40,477	1,587
経常利益又は経常損失(△)	△60,493	129,237
特別利益		
圧縮未決算特別勘定戻入額	13,499	—
特別利益合計	13,499	—
特別損失		
店舗閉鎖損失	9,900	—
その他	1,800	—
特別損失合計	11,700	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△58,693	129,237
法人税、住民税及び事業税	15,068	51,224
法人税等調整額	—	△3,633
法人税等合計	15,068	47,590
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△73,761	81,646
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△73,761	81,646

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△73,761	81,646
四半期包括利益	△73,761	81,646
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△73,761	81,646

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△58,693	129,237
減価償却費	39,347	38,727
助成金収入	△2,512	—
助成金減額損	37,942	—
圧縮未決算特別勘定戻入額	△13,499	—
店舗閉鎖損失	9,900	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,941	16,779
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△7,977	△9,550
受取利息及び受取配当金	△10	△9
支払利息	1,843	791
売上債権の増減額(△は増加)	23,452	△4,149
棚卸資産の増減額(△は増加)	△7,377	△5,120
仕入債務の増減額(△は減少)	53,657	19,978
未払消費税等の増減額(△は減少)	14,599	△4,536
その他	10,351	39,619
小計	103,964	221,768
利息及び配当金の受取額	10	9
利息の支払額	△1,973	△791
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△162,641	64,946
助成金の受取額	147,901	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	87,261	285,932
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△125,053	△52,415
差入保証金の差入による支出	—	△4,267
差入保証金の回収による収入	10,214	173
資産除去債務の履行による支出	△9,900	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△124,739	△56,509
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△250,000	—
長期借入金の返済による支出	△148,190	△4,176
新株予約権の行使による株式の発行による収入	515	—
自己株式の取得による支出	△30,722	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△428,397	△4,176
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△465,874	225,247
現金及び現金同等物の期首残高	1,997,093	1,732,842
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,531,218	1,958,089

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。